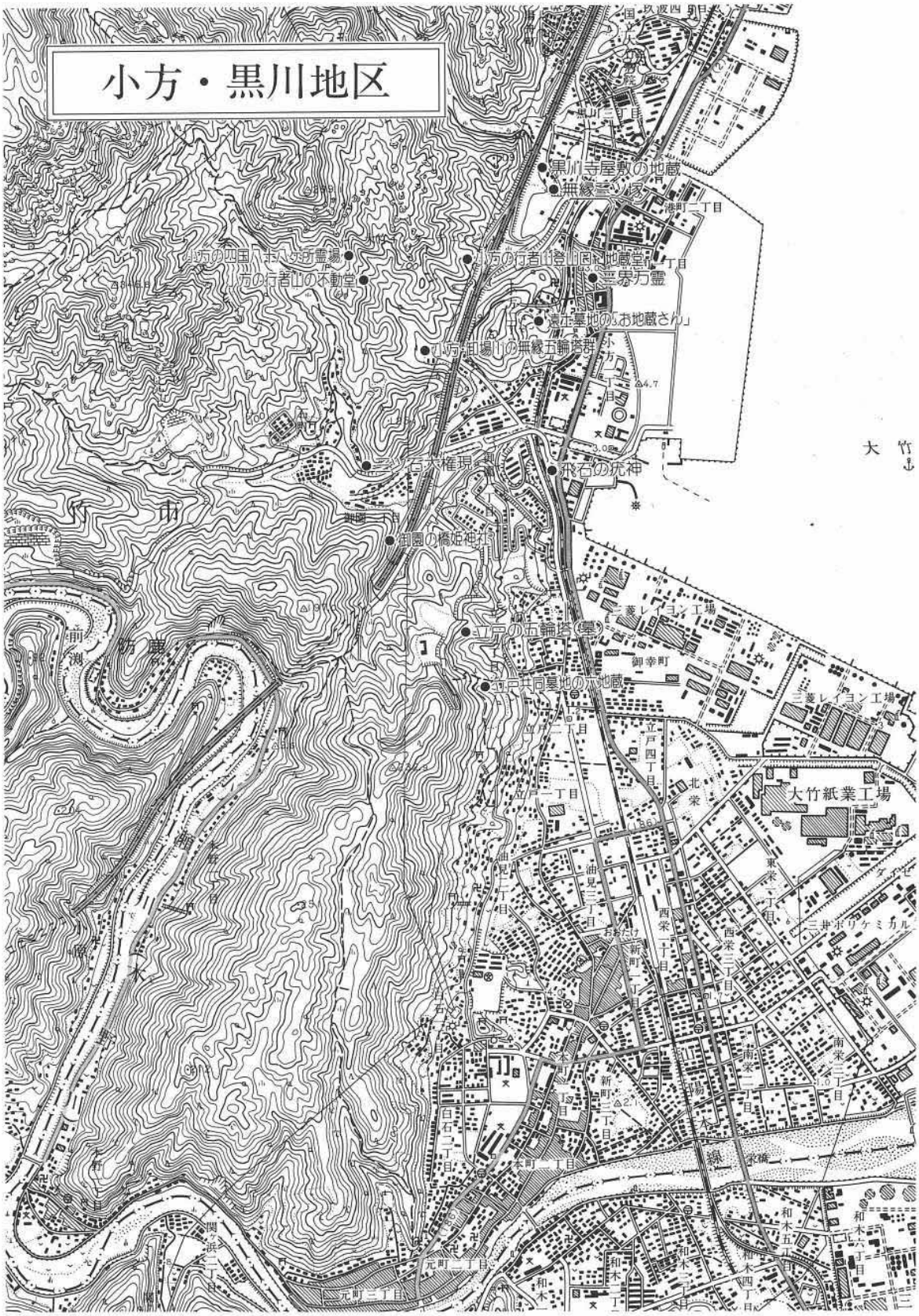
小方・黒川地区


黒川寺屋敷の地蔵
無縁塔
小方の行者山登り口の地蔵堂
三界万霊
遠正墓地のお地蔵さん
小方田場山の無縁五輪塔群
石大権現
飛石の荒神
御園の橋姫神社
立戸の五輪塔(墓)
立戸共同墓地の水地蔵
大竹紙業工場
三菱レイヨン工場
三井ポリケミカル
大竹
竹市
前潟防潮堤
御幸町
港町一丁目
立戸二丁目
立戸四丁目
北栄
東栄
西栄
南栄
和木
元町一丁目
元町二丁目
浜二丁目
新町
本町一丁目
百石二丁目
油見
小方

立戸共同墓地の地蔵

六地蔵
所　在　地　大竹市立戸二丁目
像　　高　六軀共五十五㎝
彫刻の形式　丸彫り立像
石の種類　花崗岩

お尚地蔵
像　　高　四十六、五㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

水子地蔵
像　　高　四十六、五㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

立戸二丁目の山腹に立戸共同墓地がある。その入口の六地蔵は、仏像と台座がうまくかみあうよう精巧な作りになっている。

懇志進納者の手により昭和六十一年五月祠は再建されている。

共同墓地の少し手前には、二軀の地蔵さんがおられる。左の方はお尚地蔵といわれ常に死者の霊を極楽浄土に導くためにお経をあげているようにうかがえる。右の方は水子地蔵である。

立戸の五輪塔（墓）

所在地　大竹市立戸三丁目
塔　高　右より　六十六㎝
　　六十二㎝
　　四十四㎝
　　四十四㎝
　　四十四㎝

石の種類　花崗岩

立戸三丁目鞍掛山の山腹に、五基の無縁五輪塔（墓）が、ひっそりとたっている。

一時「長州の役の戦死者」の墓だろうといわれたこともあったが、墓石の風化状況と、笠石（火輪）の反りの状態から時代を想定すると、中世から近世初頭までのものと思われる。

榊や御弊がたてられていることから、神として祀られているようである。

墓地の前には、旧山陽道（古くは「かげともの道」といわれていた）に通じる大竹でもっとも古い時代の生活道が、今にその面影を残している。

飛石の疣神

所　在　地　大竹市小方一丁目
高　　さ　七十三㎝　台座二十一㎝
自然石
石の種類　花崗岩

慶応三年（一八六七）長州の役の翌年に烏帽子新開は完成するが、それ以前の小方～立戸の間は、海が山際まで迫り、浜辺に鞍掛岩、飛石岩などが点在していた。その中の一つの岩に凹みがあり、中に溜まった水を疣にかけると、疣が取れると信じられていた。また大豆や小豆を凹みにいれて手を合わすと疣が取れたともいわれていた。

昔は、手や足に疣が出来ている子供たちを、よく見かけたものである。

現在では、海は埋まって国道二号線、山を削ってＪＲ山陽本線が走っている。飛石岩のあった辺りに、昭和三十八年三月、自然石による碑を、大師講の人たちにより建立されている。

阿多田島の六地蔵

所在地　大竹市阿多田
像　高　各六十一㎝
彫刻の形式　舟型浮彫り別石
石の種類　花崗岩

阿多田島港より左に約三百m海岸沿いに歩くと「取り切り浜」というところに、島の共同墓地がある。花崗岩質の岩場をくりぬき祠とし六地蔵が祀られている。

六地蔵

仏教の教えでは、人間は死ぬと「地獄、餓鬼、畜生、修羅、人間、天上」の六道のいずれかに行く。

その六道のそれぞれにあって生きとし生けるものの救済をしてくれるといわれる供養仏である。

御園の橋姫神社

所在地　大竹市御園二丁目
像　高　二十一㎝
彫刻の形式　半丸型　丸型二輪
石の種類　花崗岩

橋姫神社は、山陽自動車道建設に伴い、西の山裾に遷座されたものである。

創建年代、由緒などは不詳だが、昔から咳、喘息に御利益があるといわれ、また旧山陽道沿いにあり往来安全の守護神として広く尊崇されてきた。

三ツ石大権現

所在地　大竹市三ツ石町
像高　九十八、五㎝　幅　二十四㎝
彫刻の形式　自然石
石の種類　砂岩

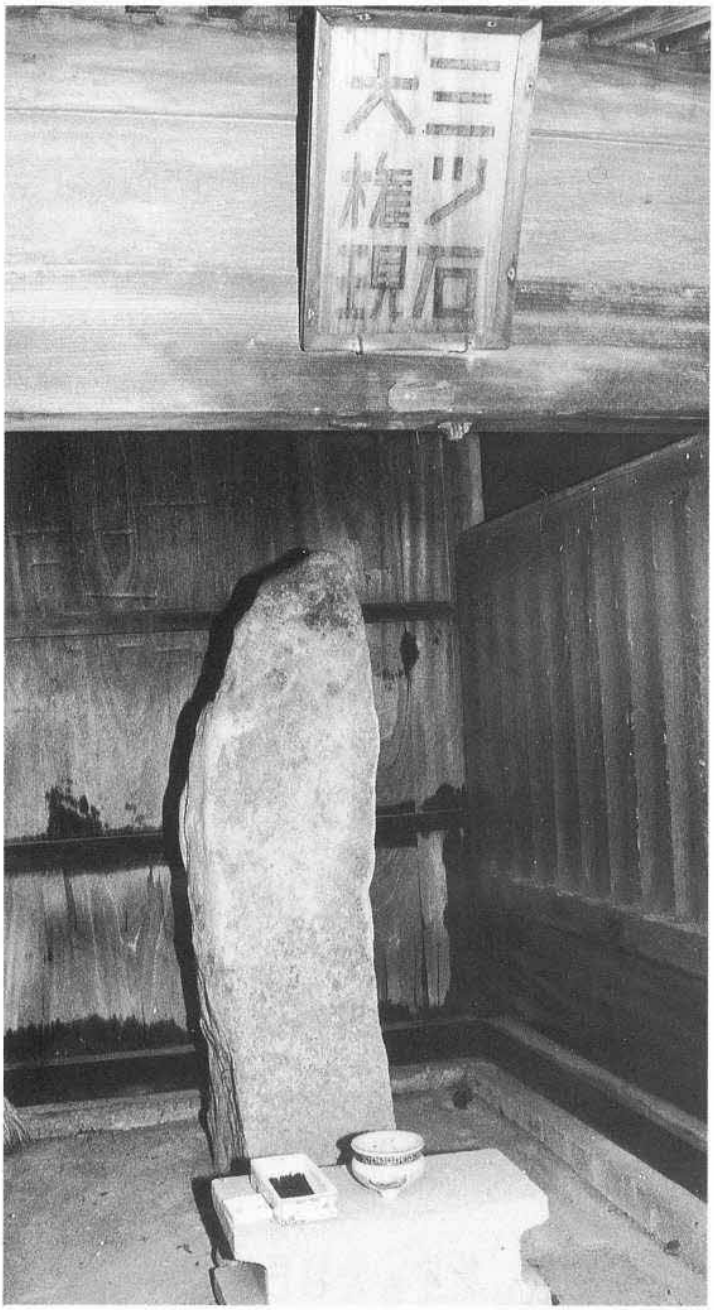
三ツ石坂を登ると、右手の山裾に祠がある。ここに砂岩の石柱を御神体とする「三ツ石大権現」が祀られている。

この石は、その昔三ツ石峠から穂仁原へ下ったあたりにあったといわれ、貝殻が付いていたことから、もっとも古い時代の物と伝えられている。

三ツ石の地名のいわれは「三組の石」からきているらしく、この御神体はその中の一つといわれている。

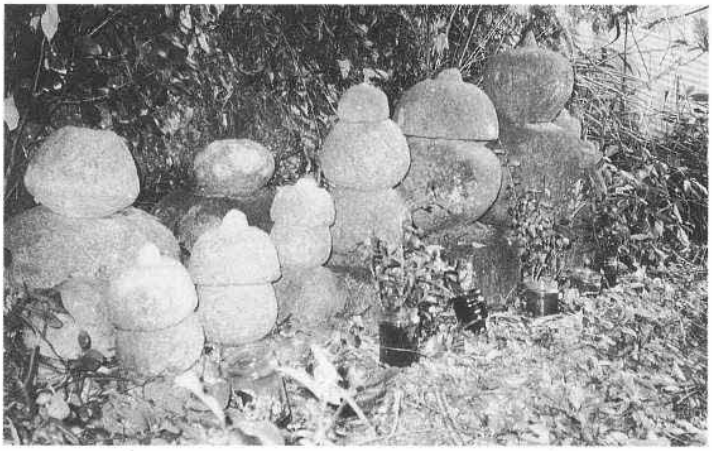
二つ目の石は、河内神社境内にある観音堂の、「聖観音菩薩像(木造り)」の後に光背の役割をしているように立てられている石であるといわれる。

もともとこの観音堂は、現在市営住宅地となっている丘の上に祀られていたものである。そして三つ目は、民家の倉のなかに納められている石で、この三つの石から地名にしたといわれている。



立戸三丁目

小方二丁目



小方二丁目

小方・卸場川の無縁五輪塔群

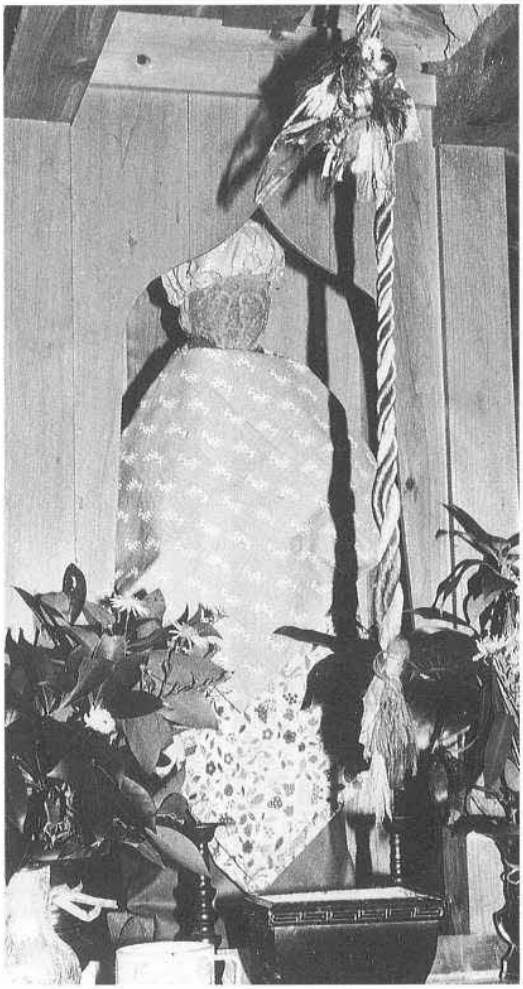
所　在　地　大竹市小方二丁目
石の種類　花崗岩

小方二丁目卸場川沿いから亀居城北側にかけて、数多くの「五輪塔」が点在している。しかし、どれ一つとしていわれが解明されたものはなく、無縁仏として謎を秘めたままである。

五輪の規模、風化状態から、中世から江戸初期の墓であろうかいずれも確証はない。

しかし、現在地元の人たちの手によりお花は絶えない。

その他にも、昭和六十年頃の青木・玖波線道路建設工事などで発掘された五輪塔の一部が、亀居城北の山裾や立戸三丁目ＪＲ山陽本線と平行に走る青木～玖波線歩道脇に祀られている。



遠土（とおづち）墓地の「お地蔵さん」

所　在　地　大竹市小方二丁目
像　　高　六十八㎝
彫刻の形式　丸彫り立像
石の種類　砂岩

亀居城跡、南の妙見丸と北の詰の丸の谷間に古くから遠土墓地がある。

この入り口に、立派に再建された祠があり、「お地蔵さん」と親しまれている地蔵菩薩が祀られている。

この地蔵さんは、今から二百二十年前明和八年（一七七一）以来、この墓地で死者の霊を慰めている。

台座には、風雪に耐えた文字をはっきりと読みとることができる。

正面　線誉上人
　　釈誉上人　　報恩
　　為有無両縁
　　経誉上人
　　光祖代々　　謝徳

右面　明和八年

左面　頂誉典忠大徳

小方の四国八十八ヶ所霊場

所　在　地　大竹市小方二丁目
（通称あげ山）
像　　高　四十七～六十五㎝　確認八十軀
彫刻の形式　舟型浮彫り
石の種類　花崗岩

小方亀居城跡北麓に、行者山への石の道しるべがある。これに次のように刻まれている。

文政八年酉四月吉日
奉寄進　願主　黒川村
松島屋
是より行者道　　壹　丁

また、最近建てられた案内板に従って約三百m行くと、標石「四丁」のところに最初の祠があり、中に地蔵尊が祀られている。

このあたりから行者山参道に沿って四十五軀の石仏がある。これが通称小方あげ山に祀られている四国八十八ヶ所縮尺霊場石仏の一部である。

いつの時代に作られたか手掛かりがないが、石仏に番号のないもの、あっても順番通りでないものもある。数えて三十五番目のところで行者山参道と分かれ、右手の尾根をくだって八十八番で終わる。

行者山参道筋に四十五軀あって、右手の尾根筋に現在、三十五軀の確認にとどまり、八軀が足りない計算になる。

このあげ山は、特に地形が悪い急斜面で、風雨のため崩れやすく行方がわからなくなったのではなかろうか。

このことからも霊場参りの人が絶えて久しい感がする。

造形的にも素晴らしいこの石仏群との出会いがないことは淋しい。

小方の行者山登り口・地蔵さん

所在地　大竹市小方二丁目
像　高　四十二㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像
石の種類　花崗岩

亀居城跡の北側、山陽自動車道のガードを抜け左に折れるとすぐ登山口があり、ここから少し入ったところに祠がある。
この地蔵さんは、信者の登頂安全をじっと腰をおろして見守っているようである。

小方行者山の不動明王

所在地　大竹市小方二丁目
像　高　八十、五㎝
彫刻の形式　丸彫り立像
石の種類　輝緑凝灰岩

鬼名山山頂の、行者堂に程近い所に鳥居がある。
ここから右手に登ると不動堂があり、市域では珍しい「青石」に、丸彫りされた不動明王立像が祀られている。
本来、不動明王は、山岳信仰のご本尊であったが、現在では修験場開祖役の行者がご本尊の位置にあり、ここ行者山でも、一段下った鳥居脇で庶民の健康状態を見守っている。

不動明王

一般に「お不動さん」の名で親しまれていて、大日如来の変身といわれる。
やさしい仏の姿では教化出来ない強情な者は、このような恐い形相で威圧した顔で救済するほかないということから、右手に剣、左手に羂索（綱）を持ち、片目は半月に他方の目は大きく見開き、牙を剥き出し背中には伽楼羅炎火という火焔を上げながら、岩座（いわくら）に乗っている。

三界万霊

所在地　大竹市黒川一丁目
像高　高さ　百十一㎝　幅　五十一㎝
石の種類　花崗岩

地蔵菩薩立像

像高　四十九㎝
石の種類　花崗岩

黒川一丁目と小方一丁目の、ほぼ境に位置する所にこの薬師堂がある。境内に、「三界万霊」と刻まれた自然石がある。

地元の信者は、これを「三界さん」と親しみをもって呼んでいる。

この「三界さん」は、昭和五十年代はじめまでは黒川と小方の境界線の旧道に面した水路の上にあった。しかし、溝に蓋をすることになり、現在地に移された。

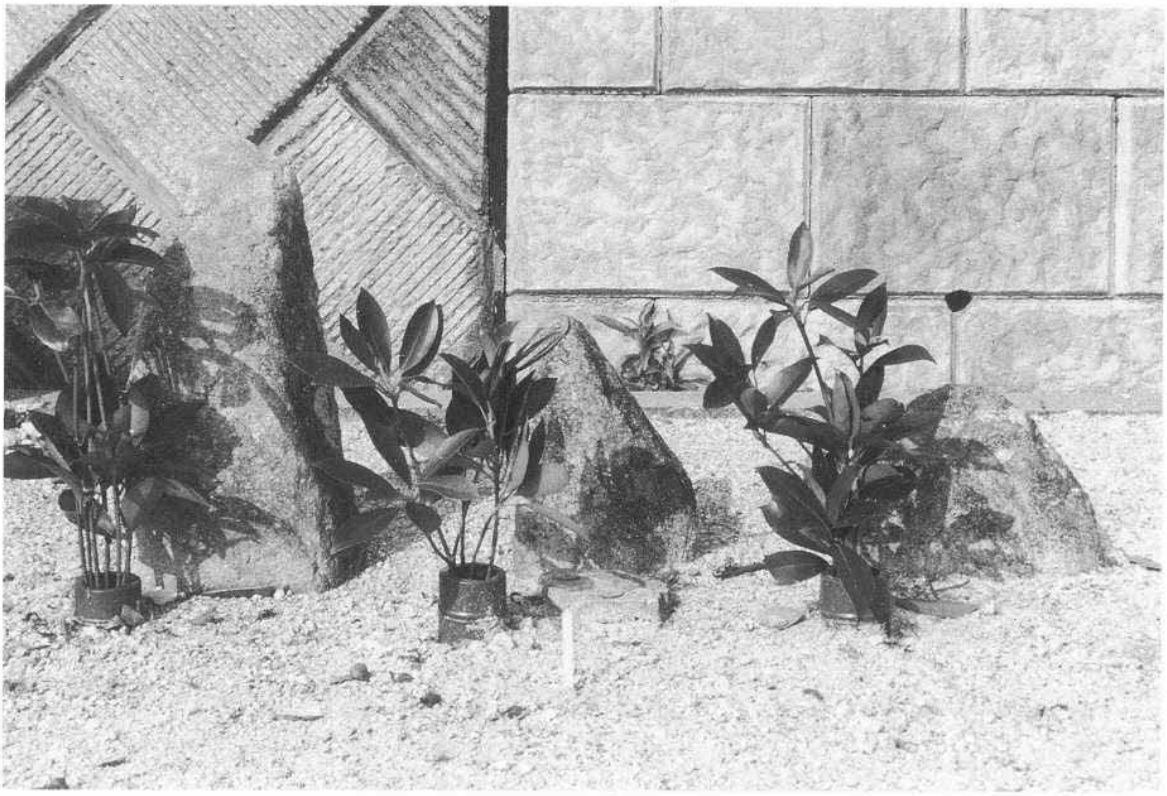
移転の際三界さんは、「行きたくない」と駄々をこねたと、地元の人は面白く話してくれた。

また、移転してこの上にお地蔵さんを載せていたところ、雨風もないのにある朝見ると、地蔵さんがかなり遠くに飛んで転んでいたといわれる。

早速、ご住職さんに尋ねると、「三界万霊の上に地蔵さんといえども、お尻を載せてはご立腹されるのが当たり前」とお告げがあったという。

地蔵さんは現在、お堂の右側に祠を建てて祀られている。

三界さんの御利益で、頭が痛いときお参りするとすぐ治ると信じられている。



無縁三ツ塚

所在地　大竹市黒川二丁目
墓高　右　十七、五㎝
　　中央　二十五㎝
　　左　四十二㎝
石の種類　自然石（花崗岩）

広島～岩国道路開通に伴い、湯舟橋の東側の田圃の畔にあったこの無縁三ツ塚は寺屋敷墓苑入口の一角に移された。

この自然石の墓の、詳しい歴史的背景は解っていないが、口伝えによると、昔、村役人が農民からの年貢米を大桝で取り立て、領主には小桝で納め、さや米を稼いでいたことが判り、夫婦と娘の一家三人が裁きの場に出されて打首の刑が言い渡されたといわれる。

しかし、娘は希に見る美人で刑執行のとき責任者が手を上げ「娘を待て」といったのを娘から行なえと勘違いをして切ってしまったという。

親子三人が「二重桝の罪」で処刑されたという伝説である。

今でも田圃の持ち主であった方が、香花を絶やすことなくお参りされている。

黒川寺屋敷墓苑　地蔵尊

所　在　地　大竹市黒川二丁目
像　　高　右　四十五㎝
　　中央　四十七㎝
　　左　五十六、五㎝
彫刻の形式　丸彫り坐像三軀
石の種類　花崗岩

黒川のほぼ中央に位置し、往古よりここに寺院があったと伝えられた所で、江戸の中期頃から墓地として使用されてきたようだ。

この墓地の入口に三軀の地蔵尊がある。六地蔵と同様に死者の霊をなぐさめる供養地蔵であるが、建立年代が異なり一軀づつ建立されたものである。

現在では、山陽自動車道開通に伴い、黒川寺屋敷墓苑管理組合の手により、地蔵尊三軀も周辺の整備とともに修復されている。

「右の地蔵尊」
右側面　内六人之施主
　　明安法尼
　　慈圓法子
正　面　頂誉典忠大徳
　　為　法界万霊
　　愚善法子
左側面　寛政四年子二月吉祥
　　（一七九二）
　　小方村仁三郎

「左の地蔵尊」
正　面　宝暦十三年未年
　　（一七六三）
　　法　界
　　七月吉祥日

「中央の地蔵尊」
正　面　文政九戌三月廿一日
　　（一八二六）
　　欣誉愚善法子

右側面
　　金十良　兵　吉
　　仁三良　庄　六
　　久次良　平次良
　　宮　助　三次良
　　平　助　久佐衛門
　　願　主　千代松

左側面
　　八十良　清　吉
　　宮太良　曹　七
　　八五良　太　一
　　長五良　彦　松
　　市次良　平　松
　　三　平
　　熊次良　徳二良
　　田